真紅な帆の帆前船

田中貢太郎

青空文庫

遠江の御前崎へ往ったのは大正十四年の二月二日であった。岬には燈台があって無線電信の設備もあった。その燈台の燈光は六十三万燭で十九浬半の遠距離に及ぶ回転燈であった。私は燈台の中を見せてもらって、その後で窓の外へ眼をやった。沖あい遥に霞の中に、敷根らしい島と大島らしい島のどんよりと浮んでいるのを見た。岬の東端の海中には、御前岩、俗に沖の御前と云われている岩があって、蒼味だった潮の上にその頭を現していた。その沖の御前の西にはド根と云う一大暗礁があって、その附近は古来数限りなく船舶を呑んでいる危険区域であった。私を案内してくれた事務員の一人は奇怪な話をしてくれた。

それは、夏から秋の初めへかけてのことであるが、真紅な血のように染まった太陽が、荒れ狂っている波と波の間に落ちる時分になると、西の方から真紅な帆をあげた帆前船が来るので、

「真紅な帆を捲いた船だ、不思議な船だ、どこへ往くだろう」

と思っていると、その船は恐ろしく静に走って来て、ド根の暗礁の方へ往くのであった。

「大変だ、ド根の礁じゃ」

と思って心配している間もなく真紅な帆はそのまま煙のように消えるのであった。

「不思議なことだ、鬼魅が悪い」

と云って鬼魅を悪がるのであった。その真紅な帆の帆前船が見えだしたのは、明治三十三四年比、日本郵船会社の品川丸と云う古ぼけた千五百噸位の帆前船がド根の辺で沈没してから間もなくであった。

青空文庫情報

底本：「伝奇ノ匣6　田中貢太郎日本怪談事典」学研M文庫、学習研究社
　　2003（平成15）年10月22日初版発行
底本の親本：「日本怪談全集」改造社
　　1934（昭和9）年
入力：Hiroshi_O
校正：noriko saito
2010年10月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

真紅な帆の帆前船

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/